4 月 21 日、午前 7 時 50 分

米中首脳会談を控え、市場は気迷い意味に推移した。今回の米中首脳会議は、事前に胡主席がマイクロソフトを訪問し、12 億ドルの発注を行い、またボーイング社を訪問した際には、今後の中国の航空機需要は 15 年で 2,000 機にも及ぶと発言するなど、ブッシュ大統領は出鼻をくじかれた感もある。胡主席からは、「人民元を大幅に切り上げる準備はしていない」との発言も事前に飛び出しており、不均衡縮小についてはＧ７の専門家会議にゆだねられることになるが、ここでも「通貨の柔軟性」を強調する程度で、はっきりしそうもない。今回の首脳会談では共同記者会見は行わないようだが、その後の「講演」が控えていたが、中国側が人民元改革にはっきりとした施策を示さず、市場の要因とはなりえなかった。

円は朝方の 117 円 30 銭近辺から一時は 117 円 90 銭をも視野に入れた動きを示したが、日本の輸出筋のドル売りオーダーが 117 円後半に降りてきており、さらに米系ファンドとみられるドル売りも先回りした感じで入ったことから、117 円後半にてキャップがかかった。
東京時間では、投信の新規設定があったのか、ユーロ円が上伸した。一時は東京の流れをついで、ロンドンでの最高値となるユーロ円は 145 円 51 銭まで買われる場面も見られたが、逆に欧州時間ではユーロ債の償還や利払いによるユーロ売りから 144 円ミドルまでユーロ売りが入った。市場のポジションもユーロロングに傾いていたのであろう。

最近の市場の印象としては、クロス円が高すぎると思っている。たとえば、ユーロ円での 145 円台、ポンド円での 2 10 円台、Ｎ＄円での 74 円台は、現在のファンダメンタルズから見て円安すぎるような気がする。今朝はユーロ円 144 円 60 銭台、ポンドは 1 円 70 銭もの値下がりを示し 208 円 80 銭台での推移となっている。

そういえばポンドも 3 月の消費者物価指数が前月比プラス 0.2％と予想の 0.3％を下回り、年率では 1.8％とイギリスがインフレ・ターゲットと設定している年率 2％を下回ってきていることから、ポンドに金利の下落余地が出てくるとの見方であろうか、ケーブルは 1.7920 から 1.7760 台に大きく下落した。対円でも上記の通りである。背景には英国中銀議事録（4 月 5 日、6 日分）によれば 7 対 1 で金利の据え置きを決めたが、次回は 5 カ月連続で引き下げを主張しているニッケル委員以外にも金利引き下げ論者が出てくるかもしれない、との見方もあるようだ。
原油価格の高騰に歩調を合わせる形でポンドは上昇していたが、21 日のＧ７における原油価格の高騰に対するは踏み込んだ声明を警戒したポンド売りもあったのだろう。しかしその原油は、今朝の時間外取引で 73 ドル 50 セントまで上昇しており、ポンドのみならずドルにも悪材料を提供しそうだ。

注目は今日からのＧ７に移る。アダムス米財務副長官の言う「国際不均衡」とは中国問題であろうし、日本にも飛び火しかねない。経済指標も多くなく、円については円高注意であろうか？

香川彰男

4 月 21 日、午前 7 時 50 分